

番号	30 - 15	申請者	神経内科医長 岡崎 敏郎
<p>【審査申請課題】</p> <p>パーキンソン病における起立性低血圧と疲労感の関連に関する検討</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>パーキンソン病は振戦や筋強剛などの運動症状を主体とする神経変性疾患であるが、自律神経症状(起立性低血圧や排尿、排便障害)や認知機能障害、抑うつなどの精神症状、睡眠障害や疲労感といった多彩な非運動症状を伴うことも特徴である。疲労感はパーキンソン病の40～50%に認められるとされているが、詳細な機序は不明である。起立性低血圧は血圧変動が小さい場合には自覚症状を伴わないため、Head-up tilt試験によって初めて認めることがある。本研究では、Head-up tilt試験にて認められた起立性低血圧の有無が、疲労感に影響していたかについて後方視的な検討を行う。</p>			
審査結果	承認 (平成30年11月28日)		